

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(玉名郡)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	玉名郡	長洲町大字長洲西 新町	破魔弓祭(的ばかい)	はまゆみさい (まとばかい)	長洲町無形民俗文化財 昭和51年3 月1日	1月第3日 曜	四王子宮	四王子神社の「破魔弓祭」は、800有余年の歴史をもつといわれる勇壮な男の裸祭りとして有名な伝統行事です。円座の「的」を、ふんどし姿の若者達が、境内や路上、有明海で激しくもみ合い・奪い合います。その後、「藁的」を小さく切り、氏子の各家庭に配って無病息災・家内安全のお守りとします。四王子神社の祭神は日本武尊と五行祖神五座です。社帳旧記によれば永暦元年(1160年)9月筑前国三笠郡四王子嶽より長須々崎浜の岩屋に來現されたのを、鍬之進が土を盛り固め、注連之進が縄を引き廻して高御座を設けました。その後現在の社床に遷宮され、そのさい氏子達が、神徳加護によりあらゆる災難苦難から逃がれ、多くの御利益幸福を得ようと御神体を安置した円座を奪った事が起源とされています。【長洲町HP/2005】 除災、延命、招福の御利益を得ようと奪い合ったのが始まりという。【2001】				
2	玉名郡	長洲町	長洲の嫁入り唄	ながすのよめいりうた	長洲町無形民俗文化財 昭和57年5 月1日	婚礼時	長洲小学校区内	ながす未来館であった町老人クラブ連合会の総会で披露された。嫁入り行列とともに披露されるのは5年ぶりであって、お年寄りからは歓声があがった。嫁入り唄は、「肥後の嫁入り唄」として有明海沿岸で江戸中期から歌い継がれてきたとされる。長洲地方では、昭和初期ごろまで「長洲嫁入り唄」と呼ばれ、友人らが花嫁を祝って歌い、送り出していたという。「のんしこら」のフレーズが特徴で、花嫁に「のし」を添える意味があるという。長洲嫁入り唄保存会が唄や三味線、太鼓で演奏。50年前の振り袖を着て、花嫁役の町職員らが登場して優雅な踊りを披露した。町の夏祭り「のしこら祭」では3年前から、保存会が嫁入り唄を歌い、町の新婚夫婦を祝っている。【2013.5.24熊日】 「嫁入り唄」は家族制度のひずみや生活苦を反映した庶民の唄として、江戸中期から歌い継がれてきた。昭和10年頃まで婚礼で友人らが歌って花嫁を励まし、見送る習わしが続いたという。【2005.11.14.熊日】 江戸時代の初期(約350年前)から、長洲町で嫁入りの時に唄われてきたと言われています。【長洲町HP/2005】 郷土色豊かな庶民の嫁入り唄で、独特の哀歓がある。【2001】		長洲嫁入り唄 保存会		
3	玉名郡	長洲町上沖洲	名石宮神楽	めいしぐわかくら	長洲町無形民俗文化財 昭和57年5 月1日	毎月12日 10月13日	名石宮	明治18年、玉名市の玉名大神宮から伝えられたものと言われていいます。昭和8年に神楽創立50年祭の記念碑が建てられています。舞の曲としては、初剣、幣、二剣、四剣、櫛、歌神楽、弓、矢、剣弓、地堅めの型があります。名石神社例大祭は、毎年10月12日の「鯛替式」、13日の「猷幣式」の2日間行われます。境内の参道には沢山の露店が並び、昼は「七、五、三参り」夜は「鯛替え」の富くじやお神楽、演芸などがあり、氏子はもちろんのこと近郷近在から沢山の参詣人達で賑わいます。「鯛替え」は、景行天皇が行幸の折り、里人が腹の赤い魚でのおもてなしをし、そのことを大変喜ばれたことから腹赤鯛を毎年献上したという古事にちなんだものです。【長洲町HP/2005】 明治8年4月、玉名市追間から伝えられたものである。【2001】	【伝統芸能】 神楽			
4	玉名郡	長洲町折地	折地のカイカイ人形		長洲町無形民俗文化財 昭和51年3 月1日	不定期	折地公民館	一説には、江戸時代にこの地区で行われた雨乞い踊りとも言われていますが「はつきり」とは分かりません。人形が人間をおんぶして踊る姿が大面白く、ユニークな踊りです。カイカイは方言で、おんぶするという意味で、折地のカイカイ人形として地域に受け継がれています。【長洲町HP/2005】 古くから行われている雨乞い踊りといわれている。【2001】 《演目》道中踊り。輪踊り。《特色》カイカイとは、おんぶするという意味で、踊り手に人形を結わえ付け、人形に踊り手がおぶさったように見せて踊る。名石宮で雨乞いがあるときは必ず踊ったという。【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
5	玉名郡	長洲町腹赤	腹赤神楽	はらかかぐら	長洲町無形民俗文化財 昭和51年3月1日	1月2日 1月25日 5月25日 9月25日	腹赤天満宮	神楽は鬼神さんで有名です。明治20年(1887年)玉名市富尾から伝えられたといわれ、種類は初剣、小神楽などの11種類があります。【長洲町HP/2005】 明治20年に玉名市の富尾から伝わったものといわれている。 【2001】 《演目》《由来》【1991】	【伝統芸能】 神楽		長洲町役場 0968-78-3111	
6	玉名郡	長洲町清源寺	清源寺神楽		長洲町無形民俗文化財 昭和51年3月1日	1月1日 4月9日 7月23日 8月1日 9月25日 5月25日	清源寺天満宮 清源寺稲荷神社 清源寺加藤神社 清源寺天満宮 清源寺天満宮 ？	秋季大祭があり、五穀豊穡などを願って地元の子どもの「子供楽」や神楽が奉納された。拝殿では神楽「鬼神の舞」が奉納され、地域の人たちが見入る中、鬼の面をつけた舞手が大声で工場を述べた。【2013.9.29毎日】 この神楽は、明治18年(1885年)玉名市迫間から上沖洲の名石宮に伝わり、それが清源寺天満宮に伝えられたといわれています。内容は、初剣、弓、歌神楽などがあります。清源寺天満宮秋の大祭は、毎年9月25日に行われる大祭で、地元では牛替えとよばれています。そのいわれは、菅原道真公が牛車を使っていたことにちなんだ行事と思われます。境内には氏子が寄進した二体の牛の石像が飾られています。昭和30年頃までは、祭りの一等賞の賞品として本物の子牛があり、当たった人は大切に可愛がり役牛として飼っていました。しかし、今日では農作業も機械化されそれもなくりました。毎年9月25日・26日。【長洲町HP/2005】 《演目と構成》初剣(1人舞)、幣(2人舞)、二剣(2人舞)、四剣(4人舞)、種(2人舞)、歌神楽(1人舞)、弓(2人舞)、矢(2人舞)、剣弓(2人舞)、地堅(1人舞)。《由来》明治28年に玉名から習ったものだという。【1991】 明治29年に古式が復興されて以来、保存会を中心に伝えられたもの。【2001】	【伝統芸能】 神楽		長洲町役場 0968-78-3111	
7	玉名郡	南関町大字小原寺陣内	古代楽			4月15日	小原菅原神社 天満宮境内東端(祇園社前)ほか	小原菅原神社内の祇園宮で、祇園祭があった。300年以上続くとされる独特の「古代楽」が奉納され、大勢の家族連れでにぎわった。祭りは、気の荒い祇園の神「ササノオノミコ」を能楽で鎮めたことに由来すると伝えられ、無病息災や五穀豊穡などを祈願して毎年続いている。屋過ぎから毎年続いている。屋過ぎから神事があり、住民ら約50人が地区公民館から神社までの約500mを踊りながら練り歩く道踊りを披露。夜は演芸大会に続き、氏子らが勇壮な古代楽を奉納した。古代楽は、鈴を手にした踊り手「イサミフリ」の3人が、太鼓を首からつるした太鼓打ち10人の前で力強く舞い踊る。境内に張ったロープにつるした仕掛け花火の明かりに照らされる中、勇壮な舞が披露されると、祭りの雰囲気は最高潮に達した。【2013.4.17熊日】 小原祇園祭は菅原神社の末社である小原菅原神社のまつりです。祇園の神といわれるササノオノミコが暴君であったため、クニノサメツチノカミ、タケハヤササノオノミコ、ヒノカグツチノカミの四神が、能楽によって鎮めたことに由来していると伝えられ、現在でも、無病息災と五穀豊穡を祈願して、楽が奉納されています。 【南関町HP/2005】 由来⇒普通は「ガク」または「奉納ガク」と呼ばれ、祇園社祭典の行事である。雨乞いの時や青年ゴモリ(9月1日)、天満宮の座祭(10月13日)の際に行われる「雨乞楽(大楽)」に対し、この「古代楽」は小楽とも呼ばれる。雨乞楽と同時に入って来たものでろうともいわれるが不明。構成⇒楽手(締太鼓、ドン5人、カン5人)、諷振(イサミフリ3人)、笛方(ガク笛、5名以上、交代で行う)、行燈持(10個)によって構成される。組織⇒戦前・戦後を通して、祇園祭の行事は小原青年会の行事であった。戦前の様子について永松富造氏の報告によると、小原区には青年会員が男女【1991】				
8	玉名郡	菊水町	菊水船山太鼓			8月14日	船山古墳広場	演目⇒菊水太鼓、神神太鼓、炎、菊水少年太鼓、菊水夜明け。 沿革⇒故郷づくりの一貫として、昭和48年にはじめられたものである。【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
9	玉名郡	南関町難関	関町祇園祭り			8月第1土	八剣神社 関町商店街一帯	真夏に繰り広げられる勇壮な神事で、京都の八坂神社の分霊が祭られている八剣神社のまつりです。主神であるスサノオノミコトが出雲の国の肥の川上において大蛇を退治された神話を縁起として、祭神の和魂を戒め、魂心を奉じたのが明正天皇の御代寛永17年(1640年)と伝えられ、その頃から商売繁盛と五穀豊穡、無病息災を願い、このまつりが始められたと伝えられます。このまつりでは、高さが3mもあるいかめしい形相の大蛇の山車が主役で、祭独特の鉦や太鼓の囃しを乗せた山車を、屋間は子供たちが、夜になると若者たちが引き手となり旧南関地区の関町商店街一帯を繰り歩きます。夜ともなると、首を振りながら進む大蛇の口から花火が撒き散らされ、より一層祭の気分になります。現在では、南関町商工会南関支部及びなんかん大蛇山振興会のメンバーが主になり、ぎおんさんを盛り上げており、祭りの活気が年々高まっている。【南関町HP/2005】 《特色》午前10時頃からお宮で神事があったあと、高さ3メートルの竜の造り物が町内に引き出される。この竜は近くの三池山に住む竜を模したもので悪疫退散に験があると言い伝えられている。寛永17年(1640)年に始まったという。【1991】		商工会 0968-53-0120 http://www.kumashoko.or.jp/nankan/event/index.html		
10	玉名郡	長洲町腹赤	腹赤楽	はらかがく		9月25日	腹赤天満宮	秋季大祭があり、五穀豊穡などを願って地元の子どもの「子供楽」や神楽が奉納された。子供楽は三味線に合わせて6年の男女12人が隣の公民館を出発。参道や拜殿前で「ハーソーライ」などの掛け声に合わせて、ムクゲを束ねた「ばちで太鼓を打ち、2か月間連日有した腕前を披露した。女子中学生による姫楽もあった。【2013.9.29毎日】 天満宮の楽は、いつ頃から始まったか分かりませんが、その歴史は古く笛、太鼓、三味線で奏されます。【長洲町HP/2005】 《演目》十全、十全崩し、親王、親王崩し。《構成》笛3人、太鼓8人。【1991】		長洲町役場 0968-78-3111		
11	玉名郡	玉東町西安寺	西安寺神楽			1月9日 11月9日 11月19日 11月29日	西安寺白山宮 西安寺白山宮 山北八幡宮(玉東町) 八木神社(西合志町)	昭和53年、現在の神楽保存会を結成。西安寺白山宮(11月9日、11月9日)、山北八幡宮(11月19日、2月19日)で神楽を奉納する。【玉東町HP/2005】 《演目》三座、初剣、櫛の舞、二剣、二弓、剣弓、神千歌、ウガヤ、長幣、四剣、二天、終神楽。《沿革》明治20年頃、玉東町木葉の宇都宮神社の宮司から習ったものである。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
12	玉名郡	玉東町山口、稲佐	雨山権現雨乞い踊り			早鷲時	霊雨山神社～区長宅～地区の田	《演目》祈願の舞、歓喜の舞。《衣装》浴衣、赤い腰巻、褌、菅笠、腰に瓢箪を下げ、団扇を持つ。《構成》笛4人、太鼓2人、鐘2人、拍子木1人、三味線6人。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
13	玉名郡	和水町(旧菊水町)長小田	長小田神楽			11月20日	長小田住吉神社	《演目および構成》初剣舞(1人舞)、櫛舞(2人舞)、三舞(1人舞)、二剣舞(2人舞)、幣舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、弓舞(2人舞)、歌舞(1人舞)、弓剣舞(2人舞)、鬼舞(2人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
14	玉名郡	和水町(旧菊水町)内田	内田神楽			10月12日 10月15日	内田赤子宮	《演目》櫛、三幣、一剣、二剣、剣弓、四剣、弓、歌舞、地方、一天、二天。《特色》江戸中期、赤子宮が建立された時に始められたという。大正年間までは、氏子の長男だけで伝承されてきた。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
15	玉名郡	和水町(旧菊水町)用木	日吉宮神楽			10月15日	用木日吉神社	《構成》初剣(1人舞)、櫛(2人舞)、御幣(2人舞)、二剣(2人舞)、弓(2人舞)、四剣(4人舞)、歌舞(1人舞)、弓剣(2人舞)、鬼(二天ともいう。2人舞)。《特色》吉田流の神楽といわれている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
16	玉名郡	和水町(旧菊水町)久井原	久井原神楽			11月15日	久井原阿蘇神社	《演目》三座、二剣、一人舞(採りものは剣)、四人舞(採りものは剣)、弓剣、鬼(二天とも呼ぶ)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
17	玉名郡	和水町(旧菊水町)下津原	岩戸神楽	いわとかぐら		11月10日	下津原阿蘇神社	《演目》櫛、御幣、散米、弓剣、二剣。《中絶曲》弓、四剣、歌舞、地方舞、鬼舞【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
18	玉名郡	和水町(旧菊水町)岩尻	岩尻神楽	いわりしかぐら		12月1日	岩尻天満宮 岩尻菅原神社	秋季大祭で、10月に結成された子ども神楽が披露された。小学生と幼稚園児の4人で結成した。狩衣姿の子供たちは笛、太鼓に合わせ、2人で舞う「櫛」「二剣」を真剣な表情で舞った。大人たちの神楽は、御幣に付けたタイを観客席に投げるユニークな「歌舞」などが奉納された。【2008.12.1熊日】 《演目》櫛、散米、二剣、剣弓、歌舞、地鎮祭。〈中絶曲：弓、四剣〉。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
19	玉名郡	和水町(旧菊水町)竈門	竈門神楽			10月15日	竈門天満宮	《演目》櫛、さんまい(花舞)、初剣、二剣、長平、弓剣、四剣、地方、歌舞、二天。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
20	玉名郡	和水町(旧菊水町)蜻浦	阿蘇神楽			10月15日	蜻浦天満宮	《演目》初剣、櫛、御幣、剣、弓、四剣、歌舞、弓剣、地方、三座、仁天。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
21	玉名郡	和水町(旧菊水町)江栗	江栗神楽			10月15日	江栗阿蘇神社	《演目》櫛、さんまい、して、二剣、四剣、うわや、神撰歌、弓剣、鬼舞。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
22	玉名郡	和水町(旧菊水町)内田	内田建築踊り			不定	不定	《特色》大工、左官の道具をもって笛、太鼓、三味線に合わせて踊る。《沿革》1907年川沿小学校が落成したときに、お祝として踊ったのが始まりだという。【1991】				
23	玉名郡	和水町(旧三加和町)大字津田字上津原	中尾熊野座神社神楽			3月15日	中尾熊野座神社	《演目と構成》櫛舞(1人舞)、三座舞(1人舞)、二幣舞(2人舞)、弓剣舞(2人舞)、初剣舞(1人舞)、四剣舞(4人舞)、弓舞(2人舞)、歌舞(1人舞)、遙典(2人舞)、地固舞(1人舞)。楽は太鼓と笛各1人。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
24	玉名郡	和水町(旧三加和町)大字平野	平野神楽			10月15日	平野菅原神社	《演目と構成》三座(屋のみ：1人舞)、櫛(1人舞)、初剣(2人舞)、長幣(2人舞)、三座(夜のみ：1人舞)、四剣(4人舞)、弓剣(2人舞)、弓(2人舞)、歌舞(1人舞)、鬼舞(2人舞)、刃納(2人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
25	玉名郡	和水町(旧三加和町)野田	野田菅原神社神楽			10月15日	野田菅原神社	《構成》櫛の舞(1人舞)、三座舞(1人舞)、初剣舞(1人舞)、幣帛舞(2人舞)、二剣舞(2人舞)、弓舞(2人舞)、剣弓舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、歌舞(1人舞)【1991】	【伝統芸能】 神楽			
26	玉名郡	和水町(旧三加和町)吉地山森	山森阿蘇神社神楽			12月1日	山森阿蘇神社	260年以上伝わる。【2009.10.11熊日】 《構成》櫛の舞(1人舞)、三座の舞(1人舞)、初剣(1人舞)、志手(2人舞)、二剣(2人舞)、弓舞(2人舞)、剣弓舞(2人舞)、四剣(4人舞)、歌舞(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
27	玉名郡	和水町(旧三加和町)和仁	和仁熊野座神社神楽			12月1日	和仁熊野座神社	《演目と構成》櫛の舞(1人舞)、初剣の舞(1人舞)、弓舞(2人舞)、幣帛舞(1人舞)、三座舞(1人舞)、二剣舞(2人舞)、剣弓舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、歌舞(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
28	玉名郡	和水町(旧三加和町)上和仁	三松大神宮神楽			12月1日	三松大神宮	《演目と構成》櫛の舞(1人舞)、初剣舞(1人舞)、幣舞(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
29	玉名郡	和水町(旧三加和町)板桶	板桶熊野座神社神楽			2月15日 11月26日 12月1日	板桶熊野座神社	《演目と構成》櫛の舞(1人舞)、初幣の舞(1人舞)、幣帛の舞(2人舞)、剣弓の舞(2人舞)、四剣の舞(4人舞)、弓の舞(2人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
30	玉名郡	和水町(旧三加和町)中十町	中十町熊野座神社神楽			12月1日	中十町熊野座神社	《演目と構成》櫛の舞(1人舞)、初剣の舞(1人舞)、二剣の舞(2人舞)、四剣の舞(4人舞)、八つ歌(1人舞)、歌舞(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
31	玉名郡	南関町小原	小原神楽			4月15日 10月15日	小原神社 小原菅原神社	小原神社の秋祭り。五穀豊穡、家内安全を願って約200年前から続いている。昼は女子中高生による子ども神楽が奉納され、夜は男衆による荘厳な舞が披露された。最後に鬼と神主が掛け合いを演じる鬼舞「二天」の奉納があった。【2008.10.17熊日】 《演目と構成》初剣(1人舞)、二剣(2人舞)、剣弓(2人舞)、歌神楽(2人舞)、地固め(2人舞)、櫛(1人舞)、四剣(4人舞)。《沿革》明治以前は神官が集まって奉納されていたものが、明治10年各宮の氏子により奉納されるようになったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡 家内安全 子孫繁栄
32	玉名郡	南関町宮尾	宮尾大和神楽			11月3日	宮尾熊野座神社	《演目》初剣、四剣、二剣、剣弓、弓、歌神楽、櫛、三座、地固め。【1991】	【伝統芸能】 神楽	地区民芸 保存会		
33	玉名郡	南関町肥猪	肥猪神楽	こえいかぐら		3月15日 10月15日	遊流喜森神社 本村熊野座神社	《演目と構成》初剣(1人舞)、櫛舞(1人舞)、幣舞(2人舞)、四剣(4人舞)、剣弓(2人舞)、弓弓(2人舞)、四剣(2人舞)、歌舞(2人舞)、二天(2人舞)、地誓(1人舞)【1991】	【伝統芸能】 神楽	神社総代		
34	玉名郡	南関町相谷馬立	馬立神楽			10月15日	馬立菅原神社	《演目》初剣舞、櫛舞、三方舞、幣舞、二剣舞、四剣舞、弓舞、歌舞、弓剣舞、地方の舞、二天。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
35	玉名郡	南関町坂下	小楽			3月28日	坂下阿蘇神社	夏越祭、600年ほどの歴史を持つ坂下阿蘇神社のまつりです。昔、拝殿が焼失しており、氏子とその再建に多大な苦勞を重ね、加えて疫病も広がり、相次ぐ災難を悲しみ、難を逃れられるようにと「難越し祭」が行われるようになりました。近年では、無事に夏を越して五穀豊穡を祈る「夏越祭」とされています。神事後、舞踊などが奉納され、地元の人で賑わいます。露店も並び、夜には花火も奉納されます。奉納される楽<道楽>、電飾鳥居【南関町HP/2005】 《演目》道楽、くずし、じゅうぜんじ、新はやし、さん下がりが、しんのう。《構成》太鼓10人、笛4人、拍子木4人、いさみ振り2人、大行灯1人、小行灯5人、ばち持ち数人。【1991】				
36	玉名郡	南関町庄寺	庄寺浮立楽			7月第1日 曜	赤坂熊野座神社	《演目》打ち込み、八ばち、十二ばち、まくり、神楽、道楽、浮立楽。《構成》太鼓2人、小太鼓2人舞、鉦2人、笛5~6人、鉦の担い手2人、山車の引き手20人。【1991】				
37	玉名郡	南関町西豊長	雨乞い太鼓			7月第1日 曜	赤坂熊野座神社	《演目》ヨイトコ、ワタシ、ヤツバシ、ロバシ、ミチバシ、サガリハナ。《構成》舞子3人、笛5人、太鼓1人、小太鼓2人。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
38	玉名郡	南関町小原	小原古代楽			4月15日	小原天満宮	小原天満宮境内で、小原祇園神社の祇園祭があり荘厳な古代楽が奉納され、夜遅くまでにぎわった。午後から始まった祭りは、女子中高生12人による子ども神楽、男衆の神楽奉納の後、住民約50人が出て道踊り。夜になって演奏大会を経て、いよいよ古代楽奉納。祭りは最高潮に達した。楽隊は「ドン」「カン」と呼ぶ二種類の締め太鼓を地面すれすれにぶら下げたユニークな太鼓打ち、鈴を手にした踊り手、笛、行燈持ちの約20人。道楽を奏でながら、地区公民館から神社まで500mを練り歩いた。境内では「ドン」「カン」5人ずつが二手に向かい合い、踊り打ち。間に入った3人の踊り手が力強く舞い踊り、荘厳な古代楽を練り上げた。仕掛け花火が幾度もはじける中での熱演に、詰め掛けた住民から惜しめない拍手が送られた。【2008.4.17熊日】	【伝統芸能】 風流芸			
39	玉名郡	南関町小原	小原雨乞い楽					《別称》大楽。《演目》八つばち、十二ばち、早楽、よいとこ、道楽、下り楽。《構成》太鼓打ち1人、笛3人、鐘2人、ひょうたんまわし10人以上、太鼓引き数10人。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
40	玉名郡	南関町関村	関村豊年太鼓			11月27日	大津山阿蘇神社	《演目》道楽、やつばち、十二ばち、まくり、山の楽。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
41	玉名郡	三加和町山十町坂本	坂本日吉神社神楽			12月1日	坂本日吉神社	《演目と構成》禰の舞(1人舞)、初幣の舞(1人舞)、二剣の舞(2人舞)、幣帛の舞(2人舞)、弓の舞(1人舞)、剣弓の舞(2人舞)、四剣の舞(4人舞)、歌舞(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
42	玉名郡	長洲町梅田区	梅田雨乞い踊り		うめだあまごいおどり	8月14日夜	梅田話し和い広場	住民ら約30人で踊る雨乞い踊りは、約200年の歴史があるとされ、昭和初期以降は忘れられようとしていたが約30年前に保存会が発足。お年寄りが記憶していた歌をテープに残し、踊りも復活させた。今は踊りの保存継承のため、一区一創運動として毎年開かれている。着物や法被姿の女性らが、夕暮れの中を道中踊りに出発。地区を練り歩き農道で輪になると、民謡調の曲に合わせ、のどかな雨乞い踊りを披露する。【2005.8.16.熊日】				
43	玉名郡	南関町	南関小唄		なんかんこうた			南関町の住民ガイド「伝楽人」により玉名郡南関町で昭和25年頃に歌われた南関小唄が復活。本来の小唄は三番までだったが、「宿場町伝楽人 案内する」と、メンバーの活動を紹介する四番を加えた。【2006.10.2.熊日】	住民ボランティアガイド 南関宿場町伝楽人			
44	玉名郡	南関町	関所まつり		せきしょまつり	11月19日	南の関うから館横特設会場	江戸時代の参勤交代を再現した大名行列。大名行列は、公募で決まった大名、姫の他、町民らが扮した小姓や侍、そろいの法被を着た町内の保育園児ら約170人からなり、関町商店街を練り歩く。【2006.11.20.熊日】				
45	玉名郡	南関町	肥後琵琶 人形芝居	ひごびわにんぎょうしばい		3月15日	南関高校	南関町出身で国無形文化財・肥後琵琶の演奏者、故山鹿教演さんの芸を地域に残そうと南関高校などで17年前に創作。7年前からは2年生が授業で取り組んでいる。この日の演目は「娘道成寺」【2013.3.16熊日】	【伝統芸能】 風流芸			
46	玉名郡	和水町和仁	御神楽	みかぐら				右手には鈴がついた錫杖、左手には扇。腰をぐっと落としかかと思うと、すぐに伸び上がって扇をくるりと回す。春富小の児童が踊る御神楽は、早いテンポで大きな動きが連続する、ダイナミックな舞。日本の伝統文化を大事にしようと、10年以上前から取り組んでおり、毎年4～6年生が運動会で発表。舞に合わせて太鼓をたたくのは同小の郷土クラブ。地元の「三加和太鼓」メンバーから指導を受け、練習している。町の文化祭や地域の老人ホームでも披露している。【2008.11.16熊日】				
47	玉名郡	和水町江田肥後民家村一帯	山太郎まつり			11月15日 11月16日	肥後民家村一帯	菊池川の秋の味覚「山太郎ガネ(モズクガニ)」を主役にした和水町の収穫祭「山太郎祭inなごみ」が江田の肥後民家村一帯で始まり、カニ料理や神楽フェスティバルなどでにぎわった。山太郎ガネを炊き込んだ「ガネ飯」、みそ仕立ての「ガネ汁」は実行委と町商工会で計1200食～1500食用意されたが、2時間足らずで売り切れる人気だった。ガネ釣り大会、勾玉づくりも。ステージでは、「神楽協演」で町内の三神楽と高千穂の夜神楽が披露。豆腐一丁早食い競争、農産物品評会も。16日は、町内6保存会の神楽協演、健康ウォーキング、マクロ解体ショーなども。【2008.11.16熊日】				
48	玉名郡	和水町	萩原神楽	はぎわらかぐら		10月11日	萩原轟神社	伝統芸能の継承に力を入れている和水町で町内に残る13の神楽のうちのひとつが奉納された。萩原神楽は、明治中期に始まり、約130年の伝統がある。五穀豊穡や家内安全、健康祈願として禰の枝と鈴を手に舞う禰、御幣を持つ参舞、刀による一刀(じかた)の舞が厳かに力強く奉納された。町は、今年伝統芸能の魅力再発見によるまちづくりのため13の神楽保存会の連絡会を結成。神楽の魅力が町内外に発信することとしている。【2008.10.12熊日】				